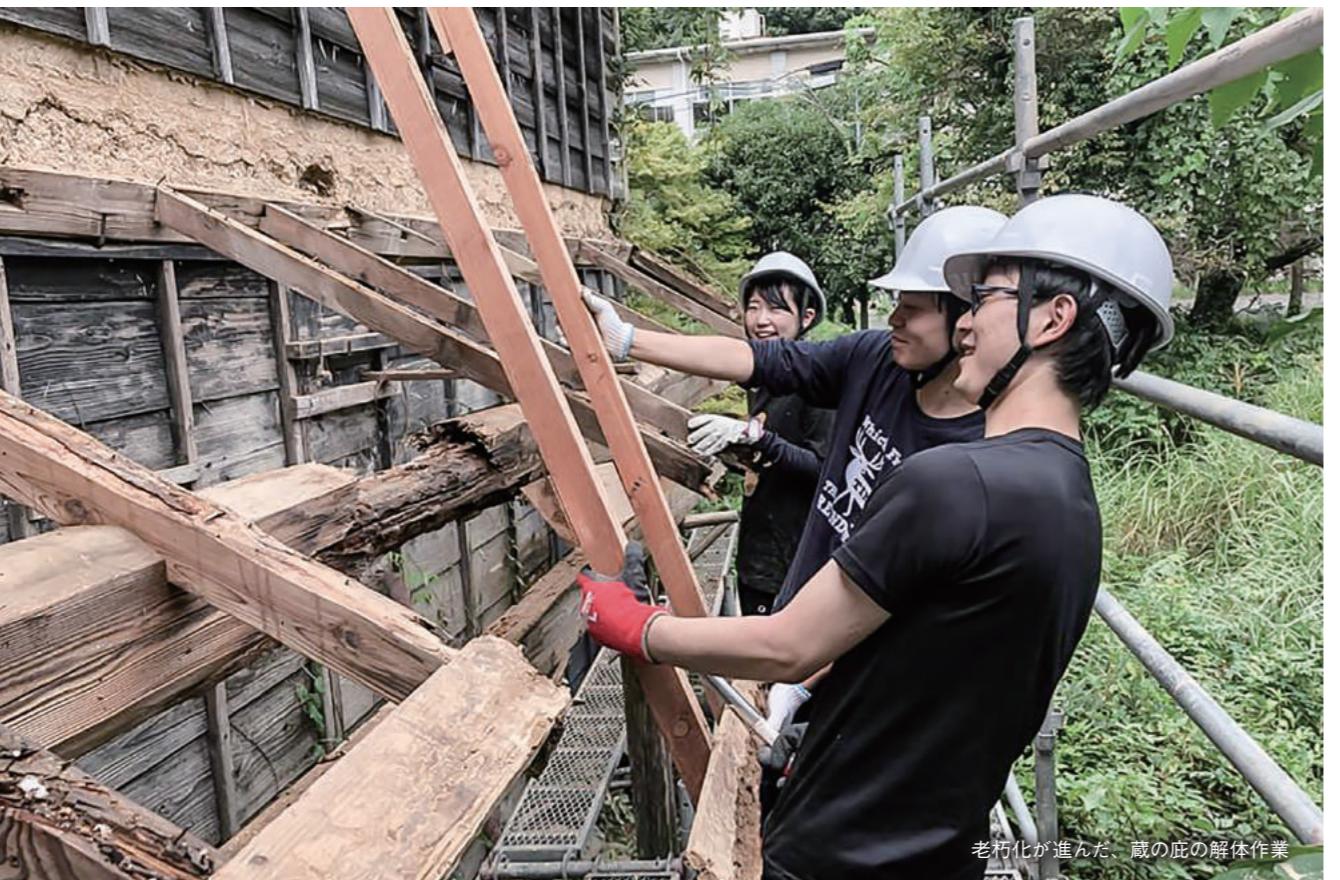


つげ野の森市民ネットワーク・黒谷プロジェクト

愛知県新城市

伝統建築の修復を通した学生への技術の継承と里山体験空間の創出



老朽化が進んだ、蔵の庇の解体作業

団体設立経緯

黒谷プロジェクトは2011年、愛知県新城市の鳳来寺参道沿いにある由緒ある屋敷建築群を、地域の社会資本として活性化しようと設立しました。「奥三河発見隊」「豊橋技術科学大学建築サークル」がそれまで屋敷でやっていた「こども塾」を訪問し、そこから黒谷プロジェクトは「地域・都会の子どもに生かされる建築」としてスタートしました。

ヘリテージマネージャー・宮大工の望月成高さんを介して工事が始まり、現在は名城大学など他大学も参加しています。

活動概要と活動対象範囲

活動範囲は信仰の山、鳳来寺山の麓にある新城市門谷地区です。この

25年前、空き家だった黒谷家に初めて入った時の印象は「おばあちゃんの家に戻ってきたみたい」というものでした。ここで都会の子どもたちと遊んで、お母さんたち同士がつながっていく活動にしたいと思い「こども塾」を20年ほど続けてきました。今回文化遺産登録の調査を受け、

地に残る築180年以上の古民家、旧黒谷家住宅を拠点として、再生・利活用を図るプロジェクトです。

鳳来寺は702年に利修聖人が開山し、宿坊も山中にたくさんありました。江戸期に徳川家光が建てた東照宮もあり、参拝客であふれる活気ある地域でした。しかし山の反対側の湯谷温泉から山頂に登るハイウェイができてからは、寂れてしまいました。

活動に至った理由や背景

1. 屋敷「忌門」の修復再建と建築
学生への技術継承

・門が立ち上りました

文化財級の建築を、直接素人の我々が触ることは少ないです。たくさんの災害（大雨洪水、台風など）に見舞われましたが、何とか門が立ち上りました。

門の周りの植え込みの選定、もともとあった水琴窟の調査清掃や、鹿威しを竹で再建するなど、学生たちの力で前進しました。それによって参道からの景観も良くなりました。壁土はで

きているので、暖かくなったら竹小舞を編んで、土壁塗りなどに取り組む予定です。

・今回の改修での発見

以前「忌門」は塀の中に入っていて、参道からは全く見えない状態でした。地域の方でも存在を知らない方もいました。3年前にみんなで番号・記号を付けて、土壁を落として文化財としての忌門の解体をしました。今年は宮大工さんが、それを基に木組みを立てました。

門と同じ南側は、倒れた杉板塀を大和塀で再建。西側は板塀は撤去して竹で「金閣寺塀」を作り、参道から屋敷の中の蔵など全貌が見える様になりました。

それを通り過ぎると、今度は忌門に出会えます。11月のもみじ祭りの夜、庭にある大きなもみじをライトアップし、庭に入れるようにしたところ、たくさんの方が喜んで写真を撮っていました。今回の門と塀の改修は、周りの景観をとても大きく変える役割を果せました。

2. 蔵の修復と内部活用計画・子ども塾の活用（名城大学 佐藤）

・庇の解体

夏期に集中して、蔵の庇を解体することになりました。最初に瓦と土、杉皮を剥がして下ろしました。屋根の上の瓦の重さは実際に持つまでは話に聞いたことしかなく、実際の重さには感動すら覚えました。

2日目は杉板を取り外し、垂木、垂木受け、軒桁の順に解体を進めていました。腐食している箇所が多く、庇として非常に危険な状態であったことが確認できました。腐食していても長年耐え続けられる構造や木組みを開発した先人たちの知恵は現在でも生き続けられるものであると感じ、大変貴重な発見でした。

解体作業の経験から、建物がどのような構成や仕組みで成立しているのかなど、表面からでは確認できない内容を知ることができました。施工することと同じように、解体することも多大な労力が必要なことも実感できました。今後の設計活動に生かしていくべきだと思います。



修復再建した「忌門」



「鹿威し」を竹で再建



山道側から見た蔵



のこぎりテクニックの実習



宮大工が使う本格的なノミを使っての指導



蔵内部の調査に先立って、片付けから取り掛かります



炎天下、修復に使う木材を塗装



土壁に使う土を練りこんでいます



技術指導を受けながら、窯のレンガ積み



窯の土台を埋め戻します



窯の外側の土が乾いたら、中の砂を掻き出す

・外壁の修繕

蔵の外壁が周囲の木々によって擦れて、経年劣化などにより壊れかけていました。外壁を修復するために、鎧張りを作成しました。望月工務店の作業場で5日間に分けて切断、塗装、組み立てを行ないました。板を切断し、溝を鉋で掘って板に塗装を施し、釘で組み立てました。

・蔵の内部調査・計画

蔵の内部の一部を片付けてから、計測・内部計画へと進んでいきました。

望月さんの指導調査により、蔵の改修跡がいたるところに発見できました。

経験の無さに打ちひしがれながらも、指導を受けて作業を進めていくうちに作業の速度も上がり、確実に技術が身に着いていく実感が得られました。機械に頼らない、自分たちの手で作り上げていく過程は、伝統工法

に感じました。内部計画はまだ完了していませんが、蔵が地域に愛されるような計画を目指します。

この黒谷プロジェクトは、様々な出来事や人との出会いがある刺激的な活動でした。宮大工の方々と触れ合いで、先人の知恵や経験を身につけ、地域への貢献を学ぶこともできました。今後、建築を生業にする私たち学生にとって、プロジェクトへの参加は誇りある実践的活動であると考えています。

・こども塾での活動の場の充実：おいしく火を遊ぶ施設の建設、ピザ窯（豊橋技術科学大学 有賀）

私は1年間このプロジェクトに参加して、学生としての一貫した活動を初めて経験しました。計画を進めていく中で、黒谷家の管理人の中島さんをはじめ、宮大工の望月さん、工務店の方々、左官の富山さん、石原さんの他、たくさんの人たちと出会い、本職の方々の協力によって私の中でできることができ徐々に増えてきました。

4月にこのプロジェクトに参加した当初は、ノミを使った経験もモルタルを練った経験もありませんでした。しかし作業していく内に、それまではトンカチと呼んでいたものが玄翁と呼ぶことを知り、計測の際には必ずダブルチェックすること、コンベックスの目盛りは10mmから取った方が正確に測れることを知りました。初めて経験したノミを使った木材加工、モルタル練り、土壁塗り、漆喰塗りでは、頭の中でイメージしていたことと実際に体を動かしてみると、驚くほど違いました。

この1年を通じて言葉や道具の使い方、ちょっとした工夫・コツなど自分のなかの知識は増えて、教わった技術は自身のスキルアップになりました。本職の方からの教えは大変貴重な経験で、この方々との出会いは確実に私の財産になると感じました。

一番良かったことは、学年を問わずプロジェクトのメンバーと一緒に成長できることです。最初は道のりは長く、目の前の作業に取り組むのみでした。しかしだんだんに出来上がっていき過程では達成感、高揚感が湧きお



大学の枠を超えて合同会議。模型で蔵の計画を検討

こり、皆でそれを共有することができました。

3. 地域住民や活動団体とのネットワーク強化

・不動明王の鳥居のペイント

参道を山に向かって歩いて行くと、上浦橋が架かっています。橋のたもとに小さな滝（現在ではコンクリートの護岸工事で段になっている）があり、人気のパワースポット「上浦不動明王」の鳥居が立っています。台風で傷んだ橋の欄干を県が直してくれ、学生たちが鳥居を研磨してペンキを美しく塗り、春祭りを迎えることができました。

山全体が信仰の対象です。地元の人たちはどの神様も大切に心を込めて祭っています。なかなかできなかった鳥居のペイントを学生たちがしてくれたことを、本当に喜んでくれました。

・地域を支える屋敷

2017年には朝日新聞臨時支局として3週間にわたって記者が泊まり込み、この地域が報道されました。その時の記者が、2018年に再度取材に訪れました。黒谷家の向かいの山下さんのJAの軽トラック移動食料販売車が、たくさんの山間部の老人を励ましている様子を取材。全国版土曜日の新聞に載りました。全国版で報道されいろいろな人からの反響があり、JAの幹部も大喜び。門谷の人々の元気を引き出しました。

人と人との出会いがつくれられ、全国版の新聞にまで門谷の人が報道された。これも長期に自由に宿泊できる屋



学生たちが、台風で傷んだ「上浦不動明王」の鳥居を研磨してお色直し

敷が此処にあったからこそだと、地域では言ってもらっています。

課題と解決方策

助成対象活動である「伝統建築再生に伴う建築学生への技術継承」の実際は、多分に危険を伴う活動ですので、天候条件は確実に確保しています。しかし天候不順が続くと、なかなか計画通りに活動が進みません。

2019年度は後れを取り戻すために、各大学夏合宿に向けてすぐ動けるように、春の連休中に合宿をして意思統一を図る予定です。豊橋技科大は新たに人数を増やして、建築系の水谷研究室ゼミとしても参加できる予定になっています。

大学生は毎年メンバーが変わるので、各大学間の交流も意識的に計画を進めなければいけないという課題も出てきました。今年からは、各大学合同での合宿も実施する予定です。

改築に伴う活動が活発になるほど、

「こども塾」の方の取り組みがなかなか進まなくなってしまいます。次の世代の若いお母さんたちの組織化が課題になってきました。高速道路ができ、名古屋から1時間とアクセスが良くなりました。今年はこども塾の回数を増やしたいと計画中です。

今後の予定

①忌門の伝統的土壁づくりである、小舞竹を編む・壁塗り・土づくりなどの作業の体験。並行して豊橋技術科学大学は、玄関脇の傷んだ土壁の修復をする。

②蔵の東側の外壁修復をする。

③蔵の中の建築の構造を再調査し、伝統的な建築を学ぶ。今後の使われ方のデザインを立案し、内部のリフォームを進める。

④もみじ祭りの時に、蔵のライトアップのデザインをする。

⑤若い母親との夏合宿、鳳来寺親子山登りなどの計画を具体化する。

●つけの野森市民ネットワーク・黒谷プロジェクト

設立年月	2011年12月
メンバー数	約50人
代表者名	中島 澄枝（なかしま・すみえ）
住 所	〒461-0025 愛知県名古屋市東区徳川1-10-7 ローレルコート徳川201
ファクス	052-935-7625
Eメール	Nakachan50@nifty.com
ウェブサイト	http://kuroya.jp/

【団体のミッション】子ども・建築学生たちが育ち、未来へつながることが活動の目的です。伝統的な日本家屋の文化を継承し、専門家による技術体験・見学など黒谷家のすべてを使って活動しています。地域への貢献も大切に位置付けています。